

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104476		
法人名	有限会社 畠中商事		
事業所名	グループホーム あおば		
所在地	廿日市市大野町福面2丁目46-9 (電話) 0829-56-5775		
評価機関名	NPO法人 医療福祉近代化プロジェクト		
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日平成20年	

【情報提供票より】20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート 造り		
	2階建ての、1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40000~60000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(300000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6名	男性	名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	79歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	廿日市市 野村病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の中で、広い敷地に建てられた元社員寮を改築したグループホームだけに、各室は広く、それぞれに馴染みの調度品が置かれている。玄関に入ると、理念である「ゆっくり、いっしょに、たのしく」と切り絵で作られた額が掲げられており、入居者の顔には安心と穏やかさが覗かれた。職員の態度も明るく、家庭的な環境の中で暮らしている様子が見えられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	車いす利用者用のトイレ、風呂場の改装工事は終了して、利用者も安心して暮らしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	何事にも前向きな姿勢で取り組んでおり、利用者本位のグループホームを目指している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2か月に1回開催されており、あおばの活動報告今後の方針を中心に会議を進めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	玄関に意見箱が置かれているが、ここへの投函はなく、月1回利用料金の持参時、家族との話し合いを十分に行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩、買い物への同行で地域での認知は広まっており、町内会行事の参加、ボランティアグループの活動等、地域との連携は進んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」と短い言葉の中に独自の理念が込められており、いろいろな場面で見うけられた		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念をしっかりと共有しており、職員の明るい優しい振舞は好感が持てた		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設して5年目を迎えているだけに、今では地域に溶け込んで、町内会の一員として認められ、近所からの野菜の差し入れ、ボランティアの申し込みもある		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自由に話し合うことが出来る雰囲気があり、評価の意義も皆理解している		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者へのサービス、取り組んだ実態を報告して、その意見を今後のサービスに生かしている		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連絡は十分とっているが、今のところサービスの向上について具体的なものはない		運営推進会議の開催、市側担当者との交渉は行われているので、より具体的なサービスの向上の話題が望まれる
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の7割以上の家族が月1回訪れるので、その時いろいろな点の話し合いをする。又3か月に1回「便り」を発行して近況を伝えている		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が入口に置かれているが、今のところ利用されてなく、3か月に ~ 2回の訪問時に職員と直接の話し合いを反映させている		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職による離職の場合、新しく入ったスタッフと早く打ち解けるよう配慮し努力している。ホーム開設当初よりの管理者が中心になって和を保つ配慮がされている		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には順番でなるだけ受講できるようにし、研修報告はミーティングで全員に伝えるようにしている		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック内でのグループホーム事業者交流会に出席し、サービスの質の向上についての勉強会を持っている		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には1週間の体験入居をもらい、集団作業、集団ゲームを行いながら、職員や他の入居者とのコミュニケーションがとれるよう取り組んでいる</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事を作る時とか庭の草花の世話をする時など、入居者から話を聞きながら、いいコミュニケーションを図るよう努めている</p>		
を					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話から本人がどのような希望や意向を持っているかを推し量っている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的なモニタリングにより、本人、家族と話し合いながら介護計画を見直している、又スタッフミーティングの場でスタッフがカンファレンスを行い多くの人の意見やアイデアを介護計画に反映させている</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行うだけでなく、本人の体調や能力の変化に応じて、期間途中でも介護計画を見直すようにしている</p>		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	住宅地にありながら近所にスーパーがあり、一緒に買い物に出かけたり、近所の神社まで散歩するなど立地を有効に利用した支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を保ちつつ、通院をしながら支援を受けている		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定め家族、看護師、ケアマネージャーを交えての話し合いを行っている		家族、看護師、ケアマネージャーの他に医師も参加した話し合いの場を持っていく支援体制が望ましい
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフミーティングを通じて、優しく穏やかな言葉かけや対応を職員に呼びかけ実行されている		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物同行など職員の都合でなく、入居者一人ひとりの希望に沿っていくように心がけている		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間の献立は決めているが、入居者の希望によって好きなものに変更することができる、又食事の準備、後片付けも入居者と共に行っている		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日と時間は決められているが、本人の希望があればできる限り対応している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花の手入れ、菜園での野菜作り、メダカのお世話など入居者が自分の役割ができるよう支援している		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりその日の希望に沿って、散歩や買い物同行、その他の屋外での活動ができるよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はかけない。玄関は夜間のみ施錠している。日中自由に玄関より外に出られる入居者もあるが見守りも十分であり又地域に認知されているので安心感がある		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時についての避難場所、避難方法について職員は理解しており、地域の協力が得られるよう働きかけている		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録して、一人ひとりの状態を把握するようにしている。同じ献立を全員に提供するのではなく一人ひとりの好み、希望によって刻み食も提供している		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自由に思い思いの場所で過ごせるようにしている。又リビングの片隅にソファを置いてゆっくり過ごすこともできる		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は4.5畳から8畳までとまちまちだが、全体的に広く備品や持ち物は使い慣れた物を使用していて、家庭での部屋そのものの中で暮らされている		